

『こども食堂通信』NO.9

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

子ども食堂訪問記⑨・⑩

「西野こども食堂 kaokao」編（札幌市西区西野8条9丁目18-67）

「北郷わいわい子ども食堂」編（札幌市白石区北郷7条9丁目6-3）

（西野こども食堂 kaokao）

9月27日、西野こども食堂 kaokao（以下「kaokao」）にお邪魔しました。

住宅街の中の一軒屋。大雨の悪天候でしたが、20人位の子どもたちが食事をしています。

奥の部屋にも10人くらいの子供たちが卓球をしたり、カードゲームをしたりととても賑やかです。

小学校高学年の子供が多く、部屋の隅にランドセルが置いてあり、学校帰りに真っ直ぐに来ています。

食事が終わった後は「カードやろう」「卓球しよう」など帰る気配はありません。終了時間の8時近くになると親が迎えに来て「バイバイ(^)/~~~」と帰っていきます。親の迎えのない子はスタッフが送っています。

子ども食堂を始めるにあたり、中心的なスタッフが町内会や学校等へニーズ調査を行い、その結果、両親が働いているこの地域では隣近所との付き合いが薄いため、子どもが一人でも来れて、様々な世代の人と気楽に触れ合える子ども食堂を作りたいと始めました。

もともとの場所は、高齢者を対象としたコミュニティカフェ「西野厨房だんらん」を実施しており、住民にもすんなりと受け入れられ、親も安心して利用できるようでした。

堀川代表は、「ボランティアに助けられ2年半続けてきて、これからのことを考える時期だと考えていますが、子どもたちがきてくれているので、やめる必要もないかと思っている」とのことでした。

（子ども食堂北郷わいわい）

10月4日、北郷わいわいを訪問してきました。

今回は、北海道社会福祉協議会（以下「道社協」）の研究誌に本地区支部が取り組んでいる子ども食堂の訪問や通信の発行等をご載せくださるとのことで、道社協の職員も一緒に訪問しました。

住宅街の中の一軒屋。中に入ると、左手にカウンター、右手にテーブル席があり、好きな場所を選ぶことができます。6時過ぎに着くと既に子ども達は帰った後でしたが、カレーライスを美味しくいただき牧野代表からお話を伺いました。

「利用者は、近隣の子供たちよりも遠くからの親子連れが多く、当初、考えていた本当に利用してもらいたい人に利用してもらえているのか・・・」という思いがあり、「今後は学習支援を行っていかうかと」考えているとのことでした。イベントの際、北星学園大学のイベントサークル「コパン部」の学生に手伝ってもらっていることもあり、普段の運営から若い学生に手伝ってもらうことで、新たな参加者の発掘やSNS等の情報発信を活発化できるのではないかと方向性を見出すことになりました。

まだまだ、道の途中ではありますが、改善の余地も大いにあり、いろいろな年代層の方々にかかわってもらい、議論を重ね、情報発信をまめにするので、今後に期待できるのではないかと思います。

北海道社会福祉士会道央地区支部から

今回は2週続けての訪問となりました。訪問した10カ所の子ども食堂の「思い」や取組内容、参加者等は様々であり、みなさん試行錯誤しながら運営をしている姿を拝見することができました。

どの子ども食堂にも利用する子どもたちや運営スタッフ、親がいました。この時代、子どもだけではなく両親、近隣に住んでいる方も食堂を求めてやってきます。「食」だけではなく、人との関わり、ほっとする場を求めているのは子どもだけではなく、大人もそうなのかもしれません。

訪問活動を始めて1年になります。訪問させていただいた子ども食堂の情報はSNS等で拝見させていただいております。これからも訪問を続けていけたらと思っておりますが、訪問を続けるなかで「気づき」が生まれ、社会福祉士を中心とする専門職に発信できたらと思っております。